

令和5年度小松市立木場小学校 学校評価 1(中間)

めざす児童生徒像

よく考え工夫する子(思索)【主体的に学ぶ力 学びを生かす力 表現する力】
たくましい心と体の子(剛健)【挑戦する意欲 最後までやり抜く力 健康を管理する力】
思いやりの心で協力し合う子(誠実)【対話する力 協働する力 自他の良さを認める力】

※児童生徒結果・教員結果・保護者結果

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果(%)			※差	達成状況の分析	改善策
				教員	児童生徒	保護者			
(学校で設定)	組織的な学校運営	木場の校風づくり 各項目90%以上の達成率にする。	① 児童は自分を高めようと思意を持って粘り強く努力している。	88.9%	92.9%	75.4%		①については、教員・児童に大きな差はないが、保護者は約15%低く評価している。 ②は、児童・保護者に比べ、職員の評価が約12%高い。学校の活動場面で児童の好意的な姿が見られるが、自覚に至っていないと思われる	①については、学校での児童の学習の姿と、家庭での学習に臨む姿の差と捉えることができるので、家庭で学習する姿勢(意欲)についての啓発をしていく。 ②については、教師がいるいないに関わらず思いやりのある行動や良い行動をすべての職員で児童を見守り、良さと成長を認める場を増やすことで児童が自覚できるようにする。
			② 児童は周囲に対して、思いやりの心で接し、互いの良さを認め合っている。	100.0%	87.5%	88.4%			
			③ オープン学校として、全職員が専門性を生かし、やりがいをもって業務にあたっている。	88.9%					
			集計						

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果(%)			※差	達成状況の分析	改善策
重点項目	働き方や業務の改善	各項目90%以上の達成率にする。	① 80時間越えゼロに向け、時間外勤務の削減に取り組んでいる。	33.3%				①については、4～6月の時間外勤務時間の平均は、どれも45時間未満。個人的に80時間を超える職員は0人という結果の中、削減の努力の程度によるものや、年度当初から分掌を担える職員数減による負担感が数値の結果となっていた。 ②③については、職員構成の変化による職場の意欲の高まりと捉える。	①の負担感を学校全体の課題とし、それぞれの職務の軽重の工夫や部会などの協力体制、ペーパーレスなどの職務自体の方法の改善に取り組む。また、常勤講師の配置により負担感は軽減される。
			② 学校組織の中で自分の役割が明確であり、創意工夫しながら取り組むことができる。	100.0%					
			③ 互いに相談したり協力したりする体制ができている。	100.0%					

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果(%)			※差	達成状況の分析	改善策
				教員	児童生徒	保護者			
小松市共通重点項目	学校研究	①の達成率を中間95%、年度末100%にする。	① 研究主題に迫る目指す授業スタイルを共有し、単元(授業)構想シートなどの具体的な取組を共通実践している。	100.0%				・①②ともに100%となり、目標指数を達成できた。 ・目指す授業について、デモンストレーション集会を行い、教師と児童ともに共有することができた。目指す授業に合わせて、学び合うための聞き方話し方の目標を学級で立て、日々振り返りをして意識しながら取り組むことができた。 ・計画的に授業研究を行い、計画訪問では、学校研究の副題として提示している学びの連続性についても考える機会となった。	・夏季休業中に、2学期の研究授業に向けて部会で単元構想シートや指導案の検討を行う。さらに、教材研究を進め、2学期の研究に生かせるようにする。 ・カリキュラムマップや学年の系統性の見直しを行い、学びの連続性を意識して教材研究や授業づくりができるようにする。 ・1学期の取り組みの振り返りを共有し、2学期以降の取り組みに生かしていく。
			② 授業研究では、教職員一人一人が子供の姿を語ったり、改善案を示したりするなど主体的に取り組んでいる。	100.0%					
			集計						
	指導力の向上	①②⑤の平均を中間85%以上、年度末90%以上にする。	① 児童生徒は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。	88.9%	87.0%		-1.9%	・①②⑤の平均が教員77.8%、児童88.9%と児童の平均は目標を達成している。また、教員の平均数値と児童の平均数値では児童が10%以上高い。 ・②③④の数値からは、「学び合うための聞き方・話し方」の取り組みによって、話す力聞く力がついてきたと感じている児童は多い。 ・⑤の教員と児童の結果が20%以上の差がある。児童は学びに達成感を感じているが、教師はねらいとしていた姿に児童が近づいていなかったり、児童の学びに変化を感じていなかったりしていると考ええる。また、教師が求めているゴールの姿に児童を近づけることの難しさを感じているという要因もある。	・①②について、子ども授業参観を今後も継続し、木場スタンダードや目指す授業像の視点をもって参観する。参観学級は振り返りの時間を必ず確保する。そして、自分たちの学級の課題を明確にして日々の授業に取り組めるようにする。 ・②③④について、学び合うための聞き方話し方の取り組みを継続し、児童が少しずつステップアップできるようにする。2学期はペアやグループでの話し合いの仕方などもテーマの中に入れて、学年で目標を決めて取り組んでいく。 ・⑤について、児童が「分かった。楽しかった。」だけで終わらず、学びをつなげていけるような授業づくりをしていく必要がある。単元のゴールの姿を具体的にもら、児童と共有する。そして、その姿に向かわせるための発問や問い返し、学び合いの場面などを今後も研究授業や授業交流を通して研究していく。
			② 児童生徒は、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。	77.8%	88.4%		10.6%		
			③ 児童生徒は、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している。	88.9%	87.0%		-1.9%		
			④ 児童生徒は、話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考え(自分と同じところや違うところ)を受け止めて自分の考えを伝えている。	77.8%	85.5%		7.7%		
			⑤ 児童生徒は、振り返る活動の中で、授業の目標に沿って自分の学びの変容を実感したり、学びに対する達成感を得られたりしている。	66.7%	91.3%		24.6%		
			⑥ 児童生徒は、コンピュータなどのICT機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために使用している。	88.9%	94.2%		5.3%		
			集計						
	学力の向上	②③の項目で、肯定的な回答をした教員が90%以上にする。	① 指導計画の作成に当たっては、学校の教育目標の実現に向け、各教科等の教育内容を教科横断的な視点で組み立てている。	100.0%				②、③について、年度当初、カリキュラムマップや学力の取組について共通理解し、各部会、学年で確実なPDCAサイクルを確立し取り組むことができた。また、自校採点学力調査を全職員で分析し、共通実践を提案することで、課題解決に向け取り組むことができた。	・本校の課題にあわせた1問分析を行うことで、各学年でできることを洗い出す。そして2学期の重点単元を設定し、実践する。 ・小中連携部会で共通理解したことを本校の実態に合わせ、校区の共通実践として取り組む。
			② 児童生徒や学校、地域の実態を捉えて教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している。	100.0%					
			③ 全職員が学力向上の取組の目的や意義を理解し、課題の解決を期待できると納得して共通実践に取り組んでいる。	100.0%					
			④ 校区の小・中学校間で学力について情報交換し、課題について共有している。(小中連携)	88.9%					
			集計						
	家庭学習	①児童の「計画を立てて勉強している」を90%以上にする。	① 家庭学習の取組として、学習方法や課題の課し方等を校内で共通理解を図っている。	100.0%	78.7%		-21.3%	①について、目標値に－11.3ポイントとなった。家庭学習強化週間と検定の時期を合わせることで、教員は計画性をもって学習に取り組ませることができた。しかし、児童が家庭学習を計画的に行う習慣がなかったと言われている。 ②について、学習用端末の持ち帰りについて、学校で共通実践をしいなかった結果を表している。	・「計画を立てる」ことについて具体的な姿を提示し、教員、児童双方が意識して取り組めるようにする。 ・学習用端末を持ち帰る日を全校で決め、定期に持ち帰るようにする。また、学習用端末を使った家庭学習の内容を充実できるように、情報担当者から研修の機会を設ける。
			② 学習用端末を活用した家庭学習に取り組めるよう課題を工夫している。	77.8%	47.8%		-30.0%		
			集計						

令和 5 年度小松市立木場小学校 学校評価 2

	目標・具体的取り組み	取組の状況（中間・8月提出）	取組の成果と課題（年度末・3月提出）
生徒指導・児童	児童の主体性を育むための積極的な生徒指導 ・児童会の活動に児童のアイデアを積極的に取り入れるように工夫することで、児童の主体性や自主性をはぐくむ。 ・学校の掲示板を効果的に使うことで、各委員会の取り組みが分かるようにし、自己有用感や達成感を持たせる。 ・教職員の日常的な児童の情報交換はもちろん、年2回の木場っ子アンケートを基に、担任や児童が話しやすい職員と面談する場を設定することで、より深い児童理解を行う。	・各委員会で児童主体の取り組みを行っていた。例えば運営委員では、みんなで遊ぶう運動と題し、一週間に一度、全校児童でドッジボールや鬼ごっこなどの運動に親しみながら交流を図った。 ・各委員会の取り組み写真やイベントのお知らせ、生き物クイズなど、取り組みが分かるものを掲示することで、自己有用感や達成感を持たせることができていた。 ・1回目の木場っ子アンケートをもとに全学年、学級で全児童を対象に担任と面談することができた。また、それらのアンケートの結果を全教職員に提示することで児童の情報と共有している。	
安全指導	命を守る取組を推進し、児童の安全への意識を高める ・計画的に避難訓練を行い、非常事態が起こった際の避難の仕方を児童と職員で共有する。 ・集団登下校訓練、交通安全教室などを行い、児童の交通ルールを守ろうとする意識を高める。 ・定期的に職員が校舎の安全点検を行うことで、事故の未然防止を防ぐ。 ・廊下の歩き方や体育館使用のルール確認等については、児童会活動と絡めて行うことで、児童の安全への意識を高める。	・1学期中に授業中の避難訓練、休み時間中の避難訓練を実施し、避難の仕方を児童と職員で共有することができた。 ・1学期中に集団登下校訓練、交通安全教室を行ったため、苦害対応で、集団登下校をした際には、安全に登下校することができた。今年度はまだ実施していないが、引き渡し訓練を毎年実施している成果で、熊対応の児童の引き渡しの際には保護者と地域が連携し、スムーズに実施することができた。 ・隔月に1回、職員が校舎の安全点検を行うことで、事故の未然防止に努めている。	
特別支援教育・	児童一人ひとりの発達課題に応じた教育支援体制の充実 ・様々な発達の課題をかかえる児童について、実態を把握し情報共有するため個別の支援シートを作成し、定期的に特別支援校内委員会を開催する。 ・特別支援校内委員会や児童理解の会などで教職員全員で有効な支援方法について共有し支援にあたる。 ・必要に応じて専門相談員を招聘や外部機関との連携を図り、児童の特性の理解や効果的な支援方法について助言を受ける。	・様々な問題を抱えた児童の個別の支援シートをもとに、4月と7月に校内特別委員会を開催し、職員で児童の情報共有を図ることができた。 ・職員会議後に児童理解の会を定期的に行った。定期的に児童の情報と交流することができ、児童の支援に役立てることができていた。 ・2学期以降に専門相談員を招聘し、児童の特性の理解や効果的な支援方法について助言を受ける予定である。	
道徳教育	道徳教育を中心とした教育活動全般の充実を図る ・定期的に道徳の授業づくり等の情報を発信・共有することで、教員の道徳教育の充実を図る。 ・重点項目の取組を他教科や活動と関連づけられるようカリキュラムマップを意識した道徳教育の推進をする。 ・家庭、地域と連携した道徳を推進していくために年に1回授業参観で道徳の授業を公開する。	・1学期中に2回、道徳通信を職員向けに発行した。通信を通して、授業づくりのポイントや評価の仕方を教職員に伝えることができた。 ・全学年がカリキュラムマップを見て、重点項目を他教科と関連付けて道徳教育をすることができている。 ・全学年、学級において、授業参観で道徳の授業を公開することができた。	
情報教育	ICT端末の効果的な活用を図る ・ICT端末の効果的な活用を模索し、成果と課題に職員間での情報の共有を図るための研修を充実させる。 ・児童がICT端末を日常的に使えるような環境整備を行い、学年の実態に応じた情報スキル習得を図る。 ・情報モラル教育の職員研修の充実させ、児童への情報モラルの習熟を図る。 ・全職員でHPの更新を分担して行い、更新回数を増やすことで、学校の取り組みをより積極的に発信する。	・職員会議でGIGA研修の時間を設け、教員同士の実践の交流を行った。教員が授業で使えるように、活用例だけでなく、設定の方法などを中心に情報交換したことで、自分の学級でどのように活用できそうかという視点で交流ができている。 ・学習用端末を活用して児童への情報伝達やアンケート回答において、日常的に活用することができた。2学期は、授業での活用を目標にICT端末を使用する。 ・HPの更新が滞り、遅れてしまうことがあったので、教員間で声をかけ合い、2学期は更新が遅れないようにする。	
読書教育	図書への充実を図り、児童の読書意欲を高める ・年間の計画をもとに図書室を利用したり、教科にあった本や「本のとびら」の貸し出しを行ったりすることで、児童の読書の幅を広げる。 ・図書委員を中心に、いろいろな本の紹介やクイズ・ゲームなど児童主体の取組を発信し、本への興味を高める。 ・「学校読書の日」には家族読書に取り組み、家族で読書に親しむ機会を増やす。 ・図書ボランティアと連携し、より豊かな読書経験の機会を与える。	・「本のお部屋」を教室に置いたり、「本のとびら」を活用したりすることで、読書の幅は広がっている。今後も、年間計画をもとに、学習に合わせた本や図書室を利用できるように進める。 ・図書委員の「図書ビンゴ」の取組により、さまざまな分類の本を読むことができ、低学年は図書の分類についても知る機会となった。また、取組があった6月は、ほとんどの学年で貸出冊数が増えた。2学期以降も、児童が進んで図書室を利用し、読書に親しめる取組を行う。 ・全校で家族読書に取り組みすることができた。 ・低学年では紙芝居や絵本、高学年では落語といった学年に合った読み聞かせを行うことができた。 ・4月に図書ボランティアの募集を呼びかけたことで、2名の参加希望があった。2学期は高学年の読み聞かせの機会も増やす。	
保健健康教育	自己の健康を管理する能力の育成 ・学期に1回「生活チェックカード」を実施し、睡眠状況やメディアコントロール、姿勢について実態を把握する。その結果から次のチェックカードでは自らが課題を設定し取り組めるようにする。 ・各学年で1回以上睡眠について学習し、保健だより等で保護者にも啓発する。 ・姿勢の大切さについて学校保健委員会等で指導し、児童に姿勢を正しくしようとする意識を持たせる。	・生活チェックカードの結果、「早寝早起きを意識して生活できた」と答えた児童の割合は8.6%、「ストップメディアを意識できた」と答えた児童の割合は9.3%だった。学年にバラつきがあったものの肯定的な回答が多かった。しかし、「良い姿勢を意識できた」と答えた児童の割合は7.4%と低かったため、今後は姿勢の大切さについて保健指導をしたり、学校保健委員会で啓発したりする予定である。 ・1学期は2、4年生で睡眠学習、1年と3年で食育を行うことができた。2学期以降も計画的に睡眠学習・食育を進める。	
体力向上	年間を通した体力向上の取組の推進 ・「木場っ子トレーニング」として短時間でできる体幹トレーニングを継続的にを行い、児童の姿勢維持や体力、集中力の向上を図る。 ・各学期に「スポチャレいしなか」の強化週間を設け、意欲を高めるとともに、運動習慣の定着と体力の向上を図る。 ・体力テストや持久走大会へ向けての練習等において、学習カードを活用し、自己の成長を実感させ、意欲につなげる。	・健康委員会で木場っ子トレーニングのお手本動画を張り、全校に共有した。また、集会で健康委員会の児童による木場っ子トレーニングの啓蒙のための発表をしたり、差別に因する提示を行ったりした。児童アンケートでは83.6%の児童が、頑張ったと回答しており、これらの取組が木場っ子トレーニングの推進につながったといえる。5月に行った体力チェックでは、達成率が42%だったので、取組を継続し、体幹力の向上を図りたい。 ・1学期では、6月にスポチャレいしなかのチャレンジカードの強化週間を設け、取組の推進を行った。取り組み結果を記録する掲示を行い、記録の更新や取組回数が分かるようにし、児童の意欲の向上を図った。2学期では種目を変えて強化週間を設定し、取組の継続を行う。 ・体力テストに向けて、前年度の個々の記録や、県の平均などを記載した学習カードを用意した。前年度の自分や他の同年度の平均の記録と比較することで、自己の成長を実感させ意欲の向上を図った。2学期に行う持久走大会でも、学習カードを活用し、児童の意欲向上につなげる。	
地域・家庭連携	地域・家庭に開かれた学校づくり ・150周年を機に、地域と連携した取組の中で、教育活動の理解を広める。 ・地域の環境や人材を活用した学習活動の実践を推進し、深まりや広がりのある学校教育活動を実施する。 ・地域、家庭と連携し、学校教育（学習・安全・健康）に協力体制を構築する。特に家庭とは児童の学習活動への理解と協力が深まるような取組を工夫する。 ・HP、通信などで地域・家庭に教育活動の情報発信をていねいに行う。	・150周年記念の取組としてキャラクターや植樹、運動会（スローガン、写真）など、具体的に子ども達の発想で動き始めている。 ・1・2年…町探検、3年…安全マップ作り、4年…ピオトープ・モリアオガエル観察、5・6年…野鳥観察、全学年…東園地体験プログラムと、計画的に地域及び人材を活用し、教科や教科横断的に学習に結びつけることができていた。 ・保護者アンケートでは、肯定的回答1：55.1%、2：42.0%併せて97.1%となっており、日頃の情報発信が家庭に届いていると言える。	

学校関係者評価	（中間評価に対して 8月学校関係者評価委員会より） ・子ども達はのびのびと喜んで学校に通っている。 ・先生たちもよく頑張ってもらっている。 ・子どもたち自身がこのようなアンケートに答えられているのが素晴らしい。 ・交通やクマなど、子ども達の安全確保のため、連携していきたい。 ・朝の登校時、昼で会った際、それぞれあいさつがありきちんとできている。 ・子供一人一人異なる成長曲線があるが、授業を参観すると、これを配慮していることが感じられる。 ・150周年に向けて子ども達のベクトルを1本にまとめる仕掛けが見られる。子ども達の心に残るものにしてほしい。 ・コロナはまだ続いているがひとりに比べるとずいぶん開放的になり、子ども達も活発に活動しているように思う。 ・コンピュータ（学習用端末）の使用について、コロナのおかげと云ってよいのか、使いこなせる子供たちが増えている。 ・朝の防犯隊の活動で交差点に立った際、「おはようございます」と元気にあいさつしてくれる児童がいてとてもうれしい。 ・校長指導の下、各教師の努力で、子ども達は事故もなく元気に頑張っている様子がうかがえる。
---------	--